HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	戦国武将観光の新潮流 ： 地域PRへファンも参加 ： 宮城県白石市
Author(s)	山村, 高淑
Description	日経グローカル(2012.10.15. No.206) 「観光地点検」掲載記事
Citation	日経グローカル, 206, 50-51
Issue Date	2012-10-15
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/50683
Rights	本著作物は、日本経済新聞社の許諾を得て掲載しています。日本経済新聞社の許可なく内容の全部又は一部を複写・転載することを禁じます。
Type	article
File Information	nikkeiglocal206_50.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

観光地点検

北海道大学観光学高等研究センター准教授
山村 高淑

戦国武将観光の新潮流 地域PRへファンも参加

近年、全国各地で観光客をもてなす「武将隊」が結成されるなど、戦国武将を核とした地域振興に新たな潮流が生まれている。中でも、市民とファン双方の熱意により参加型の盛り上がりをみせているのが宮城県白石市の事例だ。歴史ファンの若い女性、いわゆる「歴女」の支持も得て、従来の名所旧跡めぐりや大河ドラマ観光とは異なる旅客誘致に成功している。

市民が「鬼小十郎まつり」

白石市は、宮城県南部に位置する人口約3万7000人の都市で、白石城の城下町である。白石城は、関ヶ原の戦いの際に、伊達政宗が上杉景勝から奪取した城で、1602年に政宗の側近、片倉小十郎景綱が城主となった。江戸幕府の一国一城令の例外とされ、仙台藩の支城として、明治維新まで260余年の間、片倉氏が代々城主を務めた。

この片倉氏、以前は全国的な知名度は決して高くなかった。ところが2006年頃から急に若い世代の間で片倉小十郎の人気が高まり、白石市を訪れる20～30歳代の旅行者が急増した。

そのきっかけとなったのが、06年7月にカプコンから発売された家庭用TVゲームソフト『戦国BASARA2』である。ゲームに登場するキャラクターとしてスタイリッシュな美男子に描かれたのだ。続く07年11月には、小十郎にスポットを当てたソフト『戦国BASARA2英雄外伝（HEROES）』も同社から発売され、人気が沸騰する。

こうして市内では、割烹で5000円ほどする「片倉小十郎膳」を若い旅行者が注文する姿が見られるようになったり、白石城売店で、「片倉小十郎」の湯飲みが飛ぶように売れるようになったりと、これまでになかった現象が起こり、市民もTVゲームを発端とした小十郎ブームを認知していく。

さらに09年4月にはTVアニメ『戦国BASARA』も放映され、小十郎は仁義にあつい準主役的な好人物として描かれ、人気は決定的なものとなった。

こうした中、白石で2つの動きが生まれる。ひとつは市役所の若手職員有志が立ち上げた「小十郎プロジェクト」である。若い世代の来客増加を受け、08年1月に発足。イベント情報を掲載したホームページを開設したり、Tシャツをデザインしたりと、小十郎を核に白石市のPRを開始した。

そしてもうひとつが、市民が実行委員会を組織して始めた「鬼小十郎まつり」である。同市最大の歴史資源である片倉氏の歴史や、白石城とその城下町を活用し、活力ある地域づくりを目指して08年10月に第一回を開催。以後毎年10月第一土曜に白石城で開催されている。

このまつりの目玉は、白石城本丸で行われる、大坂夏の陣での片倉小十郎重長（先述の景綱の嫡子）率いる片倉軍と、真田幸村率いる真田軍との激闘「道明寺の戦い」の再現である。白石市民のほか、全国から小十郎ファンや幸村ファンが集まり、約100人の甲冑武者が片倉軍・真田軍に分かれ戦いを再現するという迫力のあるイベントである。

異色のご当地武将隊

この「道明寺の戦い」の参加者の中から、同市をはじめ東京都や県内から有志メンバーが集

禁複製・無断転載

「鬼小十郎まつり」来場者数の推移

開催年次	来場者数（人）
2008年10月4日（H20 第1回）	3,000
2009年10月3日（H21 第2回）	4,500
2010年10月2日（H22 第3回）	5,000
2011年10月1日（H23 第4回）	8,000
2012年10月6日（H24 第5回）	9,000

（出所）白石市産業部商工観光課提供の数値

2009年10月の第２回鬼小十郎まつりの一場面。大坂夏の陣での「道明寺の戦い」（片倉軍と真田軍の激闘）を再現（白石市提供）

まり、10年９月、民間のボランティアグループ「白石戦國武将隊 奥州片倉組」が発足。７日には白石城大櫓で、メンバー５人が出席し、市長から公式に認定証を授与され、翌11年５月には市の観光大使（愛称：すまｉる大使）に就任している。

こうして片倉組は、自治体公認の武将隊・観光大使として全国各地のイベントに甲冑姿で参加し、白石市のPR活動を展開している。また、今年４月には地元の佐藤清治製麺が片倉組をパッケージに起用した「白石温麺」を発売。売上金の一部は東日本大震災の被害を受けた白石城の復旧と片倉組の活動支援のために市に寄付されている。

なお、こうしたご当地武将隊は、「名古屋おもてなし武将隊」（名古屋市）が09年11月に結成式を行ったのを始め、ここ数年で「奥州・仙台おもてなし集団　伊達武将隊」（仙台市）、「山形おきたま愛の武将隊」（山形県）、「忍城おもてなし甲冑隊」（埼玉県行田市）など、全国各地で誕生しているが、実はこれらの多くは、失業対策としての国の雇用創出基金を活用した事業であった。

その一方で片倉組は、毎年のまつりに参加している有志が立ち上げたボランティア組織であり、趣味としての甲冑武者の活動を楽しみながら同市の観光PRに協力したいと市に申し出たものを、市が認定、支援するという形をとっている。まさに、まつりに全国から集まるファンの熱意が地域に受け入れられ生まれた武将隊なのである。

片倉組は震災後には東京・池袋の宮城ふるさとプラザで義援金の街頭募金活動に協力したり、ブログで震災への応援メッセージを発信したりといった活動も展開した。他の武将隊の多くが雇用創出基金の事業期限終了後の財源確保に苦慮する中で、こうしたボランティアが運営する武将隊の活躍は注目に値する。

一方で、今年の第５回鬼小十郎まつりでは、片倉組のほか、山形おきたま愛の武将隊と信州上田おもてなし武将隊のパフォーマンスも行われるなど、運営体制の違いを超えた武将隊同士の連携も進んでいる。

今後のポイント

白石市は「白石城主片倉小十郎によるまちづくり」を掲げている。このため今回の一連の経緯も、ゲームやアニメを通して描かれた小十郎の新たなイメージをきっかけにしつつも、あくまでも中心は「白石城主である歴史上の片倉小十郎」という点でぶれていない。

地域が本来持っている物語＝歴史を核に、新しい動きを創造した好例である。さらに言えば、白石市の例は、江戸期までの藩や城下が生んだ文化的土壌が、現代の地域振興においても如何に重要であるかを示している。

いずれにしても、そうしたぶれのない筋を行政が貫いているからこそ、市民とファンが安心して活躍できている。戦国武将を核に今後どんな新展開が生まれるのか、楽しみである。

禁複製・無断転載